

## 群馬医療福祉大学

## 2019 「学習状況に関する調査」「学生満足度調査」 結果報告

## 【本調査報告書】

全学 学生委員会・IR室

## I 調査概要

## (1) 調査の目的

大学における学生の生活実態や満足感を把握するとともに、それらを左右する要因や教育の効果を検証し、大学生活や教学などに関する改善策の提案を目的とした二つのアンケートを実施します。一つは、「学習状況に関する調査」です。このアンケートを通じて、私たちは学生の大学及び大学以外での学習の実態、さらに自立的な学習を進める上での困難をとらえ、今後の授業を改善し、学生の自立的な学習を進めるための資料として活用します。もう一つは、「在学生満足度調査」です。学生の皆さんの大学への率直な意見を伺い、魅力ある大学・短大となるための改善・改革に取り組む基礎資料とします。

## (2) 調査の方法

※別紙「「学生満足度調査等」実施について」に示した調査手順により、Google フォームにて作成した調査票に回答する。

## 1) 設問の構成 全43問

- A 「学習状況に関する調査」関係 設問【1】～【28】
- \*あなた自身について 設問【1】～【9】 \*学生生活について 設問【10】～【16】
  - \*受講している授業について 設問【17】～【27】 \*現在の状況や考え方について 設問【28】
- B 「在学生満足度調査」 設問【1】～【15】
- \*入学前の気持ちと本学の認知について 設問【1】～【4】 \*本学の教育について 設問【5】～【9】
  - \*本学で身についたことや身につけたいこと 設問【10】～【15】

## 2) 実施機関

全学学生委員会が主体となり、昨年度まで実施したアンケート結果を踏まえ、より学習状況を深化した調査をおこなう。

## 3) 実施時期

- ・前橋キャンパス（社会福祉学部・短期大学部） 2019（平成31年度）年2月8日（金）年度末オリエンテーション時
- ・藤岡・本町キャンパス（看護学部・リハビリテーション学部） 2019（平成31年度）年2月18日（月）年度末オリエンテーション時

※当日欠席した学生は、別日程にて個別に随時参加（年度末までを期限とした）。

## 4) 調査対象 全キャンパス・全学年の在籍者

## 5) 回収数・回収率

所 属	在籍者数	回収数	回収率
社会福祉学部	342	239	69.9%
看護学部	366	306	83.6%
リハビリテーション学部	260	217	83.5%
医療福祉学科	94	89	94.7%
合 計	1062	851	80.1%

### (3) 調査結果の報告について

- 1) 各キャンパス学生委員会にてアンケート集約
- 2) 平成31年4月1日(月)から社会福祉学部で集約・分析手続き作業開始
- 3) 定例学生委員会にて進捗状況報告
- 4) 令和元年9月11日(水)教授会に報告
- 5) IR室を通じホームページ等で公表

## II 調査結果のまとめと考察

### 調査結果のまとめの方向性

〔ねらい〕 本調査は、学生生活や学習状況、大学への関わり方などを総合的に問う本格的な調査であり、全学生に実施した全数調査である。総合的に満足度を把握することで、大学教育および大学運営上、どのような点に改善の狙いを定めたらよいかを確認することが大きな目的であった。

本年度(平成30年度)の調査は前年度までの質問項目を見直し、今後の比較検討するための基盤として本学の特徴をつかむために実施する。また、他大学との比較を可能とするための質問を用意し、内容も多岐にわたるものとした。いくつかの質問への回答から、本学の課題やよさが浮かび上がる内容になっている。本報告においては、第1部「学習状況に関する調査」、第2部を「在学生満足度調査」とし、特に特徴的な点をピックアップし、改善につながるポイントを提示する。

### 第1部「学習状況等に関する調査」関係

**課題1)〔入学形態の今後の動向〕 一般入試が3割を超えているが、今後については高大連携などによるAO入試に重点を置き積極的に推進する必要がある。**

〔問1〕アンケートに答えた学生の所属は大学90%、短大10%であり、〔問2〕所属学部(学科)は社会福祉28%、看護36%、リハビリ26%、短大10%となっている。〔問4〕入学形態は一般入試が31%であるのに対し地域推薦枠は8%、AO入試は17%となっている。今後の傾向としてはAO入試枠の増加を希望する者が増加するものと考えられる。

**課題2)〔勉強時間の少ない者や成績が下位だった者に対する対応等〕 進路については入学時にはすでに決めている者が多数を占めるが、学生の本分である学修への取り組みが入学後も低迷しており、何事もほどほどにという者も3割近く存在している。今後、学生生活の充実度アップへの支援と将来の目標への的確な指導が必要である。**

〔問6〕高校3年生の時の一日の勉強時間は「4時間以上」18%に対し「1時間未満」48%と約半数である。〔問7〕中学3年生の時の成績は「中の上以上」40%に対して「中の下以下」29%存在している状況にある。〔問8〕中学、高校時代に将来について「かなり考えた者」21%と少なかったが、〔問9〕大学に入ってから「将来就きたい職業が明確にある」とした者が46%、「ある程度ある」を含めると87%に達し、大学へ目的を持って入る者、若しくは入ってから決める者が多数を占めている。〔問10〕しかし、学生生活の過ごし方を見ると「勉強・研究第一」13%、「資格取得第一」は9%程度と低迷しており、「趣味や豊かな人間関係交友関係を望む」ものは合わせて33%、「何事もほどほど」が29%となっている。〔問11〕次に学生生活の充実度は「充実・まあまあ充実」が合わせて83%と高い比率を占めている反面、「あまり充実していない・充実していない」と答えた者が17%存在することも留意しなければならない。

**課題3)〔予習復習・資格取得への取り組み、一般教養への関心が低い〕 学生の学修への取り組みは「あまりしていない・ほとんどしていない」が3割と高い数値を示している。特に自主的な勉強については6割強が1時間未満であり、学生としての学修に取り組む姿勢が問われる。教養意欲の涵養と就職活動やボランティア活動への参加促進、さらには適切なアルバイト時間の指導なども必要である。**

[問 12]大学生としての勉強への取り組みは「よくしている」「まあまあしている」を合わせると63%となっているが、「あまりしていない」と「ほとんどしていない」も33%となっている。[問 13]その理由としては「アルバイトが忙しい」「自分の目標が不明確」な者に加え、「なんとなく」や「授業が面白くない」なども多数存在する。[問 14]なお、「自分に自信を持って行動できているか」の問いには70%がそれなりにできていると自己評価している。[問 15](1)次に、授業に費やす時間については週に21時間以上が最も多くなっているが、(2)予習復習に充てる時間は5時間未満が多数を占めている。(3)また、授業に関係ない自主的な勉強は82%が2時間未満と少ない状況にある。(a)さらには、資格試験対策としての講座への参加は1時間未満が65%、自主的な勉強についても64%が1時間未満である。(b)次に、教養関係の本を読む時間が「1時間未満」84%、(4)新聞を読む時間が1時間未満の者が95%と大多数となっている。(6・7)サークルや委員会活動への参加は週に「全くなし」が53%「65%」と過半数を占めている。(8)就職活動も「全くなし」70%。(9)アルバイトは「全くなし」26%「1週間に6時間以上」48%「21時間以上」9%となっている。(10)ボランティア活動も「3時間以上」39%「全くなし」32%。[問 16]1カ月の読書数は「0冊」56%「2冊以上」22%である。

**課題4)〔授業に関して熱心さはあるものの戸惑いを抱いている学生も多い〕 教員のより一層の授業への創意工夫が求められるとともにその授業や宿題に対する必要性等の理解を得るための努力も求められている。また、授業に臨む学生の態度についても適宜適切な指導が重要である。**

[問 17]授業に対する態度については、「熱心」「まあまあ熱心」は78%となっているが、一方で「熱心ではない」「全く熱心でない」が22%となっている。[問 18]また、授業に対する満足度も「満足」と「不満足」が熱心さの状況と全く同じである。[問 19]さらに、授業の理解度についても7割程度以上理解している者は72%となっており、6割以下の理解者も28%となっている。[問 20]次に、授業内容に関することでは、話し合いなどを採り入れているのが86%と教員が工夫している面が見られる。[問 21]反面、授業中の私語・携帯電話の使用・居眠りが20%あるも、[問 22]学生からの課題・宿題のニーズも20%と低い。[問 22・23]また、宿題の必要性についても賛成は20%止まりであり、賛成しない者は30%となっている。なお、今のままで十分と感じている者も25%いる。[問 24・25]次に、勉強に関する困難さを感じている者が64%を占め、なかでも専門科目について32%が困難と感じている。[問 26]また、困難さの要因としては「何をやったらよいか分からない」「意欲が湧かない」「高校までの基礎知識が足りない」などあげており、[問 27]その乗り切り法として「学科の先輩や友人に訪ねる」ことで解決している。

**課題5)〔学生の現状は新たな知識等の吸収意欲に欠けるも、協調性や言動に対する責任感が高い〕 良いところを伸ばし、欠けるところをしっかりと支援できる環境づくりのための基盤の整備・充実が重要となっている。**

[問 28](1)時事問題に「関心のある」は43%「ない」と「どちらでもない」が57%と過半数になっている。(2)次に、相手の気持ちや立場に立って適切な行動ができるか否かについては「あてはまる」と回答した者が80%を示している。(3)また、身近な問題は自分たちで解決すべきだと思う者も80%を超えており、(4)さらに将来について今やっていることがある者も63%に上っている。(5)他者の言動に流されないという者が49%、流される者は23%を占めているが、(6)周りの人と強調して物事に取り組むことが出来る者が約80%を占めている。(7)次に、新聞やニュース等にまつわる雑誌等をよく読むか否かは「読む」が25%「読まない」が48%と高いが、(8)物事を多角的にとらえようとしている者が58%と高率になっている。(9)次に、自分が就きたいと思う職業が明確にある者が72%、ない者が12%となっている。(10)また、自分の意見をはっきり言うことが出来る者が56%、出来ない者も20%近くいるが、(11)周りの人と良い関係を維持することが出来る者が75%と高率を占めている。(14・15)自分のことは自分で判断することや自分の感情をコントロールできるとした者も70%前後と高率になっている。(16)なお、10年後の自分の姿を考えたことがある者は47%、ない者が25%。(17)自分の言動に責任を持っている者が71%となっている。

## B「満足度調査」関係

**課題6)〔入学前の気持ちでは満足度が高い者が多く、大学の認知や基本的な理念・目標についても理解は進んでいる。また、基本的な事項については基礎教育・情報教育・キャリア支援などについては学年によって異なる部分もあるので一律に回答することには課題がある。また、本学の特徴であるクラス担任制については1/4が満足していない状況にあり、またボランティア活動についても趣旨説明をさらに重ねる努力が求められている。〕 教職員自らが初心に帰って基礎的な学習環境や制度の理解を高めるための努力が必要である。**

[問 1]入学が決定時の気持ちは満足が68%となっているが、満足していない者も12%存在。[問 2]本学の教育理念の認知については、入学前から知っていた者が55%、入学後が40%となっている。[問 3]また、教育目標に対する認知度もほぼ同様であり、[問 4]理念や目標をいつ感じるかについては、講義を受けているときや学園祭などとなっている。

[問 5](1)次に、基礎教育に対する満足度は満足しているが61%、不満は9%。(2)専門教育について満足している67%、不満は7%となっている。(3)情報教育については半数が満足しているが「どちらともいえない」33%。(4)総合演習(ゼミ)・卒論指導については満足が43%、不満は6%で受講していない者も26%いる。(5)基礎演習については58%が満足、(6)外国語教育については満足が41%どちらともいえないが35%となっている。(7)キャリア支援関係では満足が38%どちらともいえないが31%受けていない者も25%となっている。(8)次に、資格取得対策講座については「満足している」45%、「どちらともいえない・不満」が35%となっている。(9)クラス担任制については「満足している」66%「どちらと

もいえない・不満」25%となっている。(10)ボランティア活動(単位認定)に対しては「満足」50%「どちらともいえない・不満」が50%と拮抗している。

**課題7) [取り組む姿勢と授業に対する意見について、本学の特徴である専門的な知識や幅広い知識を求める学生が多いが、授業に対する教員と取り組みや施設・設備への不満も多い。複数回答] 学生の求めている知識や教養を理解したうえで授業の展開や施設等のさらなる充実が求められている・・・**

[問6]意欲的に取り組んでいる事項としては「専門的な知識を身に付けること」が411件と最も多く、次いで「幅広い教養を身に付けること」307件、「資格取得の対策を行う」と「実験・実習で学ぶ」が共に205件となっている。

[問7]次に、受講している授業での不満について「一方的な授業」205件「指導が十分でない」187件「教員の熱意が不足」54件と教員に対する意見が多く、[問8](1)次いで「授業内容に興味を持たない」147件「授業の必要性がわからぬ」110件、「授業が難しい」168件、また「施設・設備が充実していない」114件「不満がない」124件となっている。

**課題8) [本学の授業に関しては、専門分野や基礎・教養分野は充実している。また、授業に創意工夫を凝らしている教員が過半数を超えている。しかし、それぞれの質問項目に対して「どちらともいえない」とした回答が約30%前後となっている] 専門家としての教員のさらなる意欲をもって授業にあたることにより学生の学修意識を高めることになる。**

[問8](1)専門分野の授業については「充実している」67%「していない」6%。(2)基礎・教養分野の授業は「充実している」63%「していない」6%となっている。(3)演習(ゼミ)・卒論指導での旧幾の充実では「充実」47%「どちらともいえない」43%。(4)外国語教育については「充実」39%「どちらともいえない」44%「充実していない」17%。(5)実験・実習科目に十分な時間が取れているかについては「取れている」66%「どちらともいえない」35%。(6)情報リテラシー教育の充実については「している」48%「どちらともいえない」36%。(7)選択授業科目の充実については「している」50%「どちらともいえない」32%。(8)少人数クラスの授業が多いかについては「そう思う」48%「どちらともいえない」33%。(9)高校で学んだこととの結びつきが多いかは「そう思う」33%「どちらともいえない」36%「そう思わない」31%とそれぞれ1/3となっている。(10)次に、授業が資格取得に役立つか分かる授業が多いかについては「そう思う」59%「どちらともいえない」31%。[問9](1)授業の進め方や指導法をよく工夫している教員が多いかについては「そう思う」65%「どちらともいえない」32%「そう思わない」が13%となっている。(2)また、教育・指導に熱意を持っている教員が多いかについては「そう思う」55%「どちらともいえない」34%「そう思わない」18%。(3)勉学意識を持たせてくれる教員が多いかについては「そう思う」43%「どちらともいえない」39%「そう思わない」18%。(4)学問分野の専門家として優れた教員が多いかについては「そう思う」58%「そう思わない」33%。(5)人間的に魅力あり尊敬できる教員が多いかについては「そう思う」48%「そう思わない」18%。(6)授業中の質問・意見に適切に対応してくれる教員が多いかについては「そう思う」57%「どちらともいえない」33%。(7)授業以外での教員とのコミュニケーションがとりやすいかは「そう思う」59%「どちらともいえない」29%。(8)卒業後の進路について適切な助言をしてくれる教員が多いかについては「そう思う」52%「どちらともいえない」36%となっている。

**課題9) [本学で身についたことで、新たな想像力の面では身についたと思う者は半数に達していないが、今後身につけたいと思う者は65%となっている。他の設問でも現在の状況は「身についた」と思う者が50~60%に達しているが、30%以上の者が「どちらともいえない」状況にある。今後身につけたいという点では60~70%と上昇しているが「どちらともいえない」者が25%前後存在しているのも事実であり、今後、判断を決めかねている者に対する支援を積極的に行う必要がある。なお、少数ながら身につけたいと思わない者が存在するのも事実であり、その対応についても検討しなければならない。なお、個々の特徴を示している設問として、一つは「外国語に関すること」であり、現状としては6割の者が身についたとは思っていない。また、数式等による表現・分析力も5割を切っていることから今後の検討課題といえる。]**

[問10](1)A常識にとらわれず新しいアイデアを生み出す力は現在の程度身についたか「身についたと思う」48%「そう思わない」14%、(1)Bまた、今後どの程度身につけたいかでは「身につけたい」65%「どちらともいえない」30%。(2)A現状を分析し課題を明らかにする力は身についたかでは「そう思う」51%「どちらともいえない」41% (2)B今後身につけたいかでは「そう思う」66%「どちらともいえない」30%。(3)A目標達成に必要なプロセスを計画し準備する力が身についたかでは「そう思う」50%「どちらともいえない」41%、(3)B今後身につけたいかでは「そう思う」が66%「どちらともいえない」30%。(4)A目標達成に向かって取り組み続ける力が身についたと思うかでは「そう思う」65%「どちらともいえない」38%、(4)B今後身につけたいと思うかでは「そう思う」68%「どちらともいえない」28%。(5)A自分から進んでものごとに取り組む力が現在身についたと思うかでは「そう思う」66%「どちらともいえない」36%、(5)B今後身につけたいかでは「そう思う」70%「どちらともいえない」27%。(6)A目標実現のため周囲の人の協力を得る力が現在身についたと思うかでは「そう思う」59%「どちらともいえない」34%、(6)B今後身につけたいかでは「そう思う」71%「どちらともいえない」26%。(7)A周囲の状況に配慮して行動する力が現在身についたと思うかでは「そう思う」74%「どちらともいえない」31%、(7)B今後身につけたいかでは「そう思う」71%「どちらともいえない」26%。(8)A社会の規範やルールに従って行動する力が現在身についたと思うかでは「そう思う」65%「どちらともいえない」30%、(8)B今後身につけたいと思

うかでは「そう思う」72%「どちらともいえない」25%。(9)A ストレスに対応し自分の感情をコントロールする力が現在身についたと思うかでは「そう思う」59%「どちらともいえない」31%、(9)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」73%「どちらともいえない」23%となっている。(10)A 次に、自分の意見を相手にわかりやすく伝える力が身についたと思いかでは「そう思う」56%「どちらともいえない」34%、(10)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」75%「どちらともいえない」23%である。(11)A 相手の意見を丁寧に聞き内容を正確に理解する力が身についたと思うかでは「そう思う」62%「どちらともいえない」32%、(11)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」74%「どちらともいえない」23%。(12)A 自分と意見の異なる人がなぜそのように考えるかを相手の立場で理解することが身についたと思うかでは「そう思う」60%「どちらともいえない」35%、(12)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」73%「どちらともいえない」24%。(13)A 外国語を読み書き聞き話す力が身についたかでは「そう思う」39%「どちらともいえない」36%「そう思わない」25%、(13)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」63%「どちらともいえない」28%。(14)A 社会のために行動する力(ボランティア・NPO活動など)が身についたと思うかでは「そう思う」60%「どちらともいえない」34%、(14)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」77%「どちらともいえない」28%。(15)A 多様な情報を整理し必要な場面で活用する力が付いたかでは「そう思う」53%「どちらともいえない」39%、(15)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」69%「どちらともいえない」28%。(16)A コンピューターを使って文書や表資料などを作成する力が付いたと思うかでは「そう思う」57%「どちらともいえない」33%、(16)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」70%「どちらともいえない」26%。(17)A 社会が直面する問題を理解する力が身に付いたと思うかでは「そう思う」57%「どちらともいえない」35%、(17)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」68%「どちらともいえない」28%。(18)A 物事を数式や図表を使って表現・分析する力が付いたと思うかでは「そう思う」44%「どちらともいえない」39%「思わない」17%、(18)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」65%「どちらともいえない」30%。(19)A 次に卒業後も学びつづける力が付いたと思うかでは「そう思う」54%「どちらともいえない」37%、(19)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」68%「どちらともいえない」28%。(20)A 自国や他国の文化・社会について理解し尊重する態度が身についたと思うかでは「そう思う」51%「どちらともいえない」39%、(20)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」65%「どちらともいえない」30%。(21)A 物事を客観的・多面的にとらえる力が身に付いたかでは「そう思う」58%「どちらともいえない」36%、(21)B 今後身に付けたいかでは「そう思う」70%「どちらともいえない」27%となっている。

## C 「本学への総合満足度」

課題 10) [本学へ入学して「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせると 54%となる。また学科の満足度は「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると 59%、後輩に入学を勧めるかでは「勧めたい」と「どちらかといえば勧めたい」を合わせると 39%となっている。入学の満足度と学科の満足度は 5 割強となっているが、「どちらともいえない」が約 3 割、満足していない者も 2 割近く存在している。また、後輩に入学を「勧めたい」と「どちらかと言えば勧めたい」を合わせても 4 割弱で、「どちらともいえない」が 3 割強、「どちらかと言えば勧めたくない」と「勧めたくない」が合わせて 7 割弱となっているのは本学にとって大きな課題であるといえる。] この課題について大学全体として真摯にとらえ、原因の究明と対策を早急に図る必要がある。

[問 11]本学へ入学してよかったと思うかについては「よかった」16%「どちらかといえばよかった」38%「どちらともいえない」28%「どちらかといえばよくなかった」10%「よくなかった」8%となっている。

[問 12]次に、所属している学科に満足しているかについては「満足」20%「どちらかといえば満足」39%「どちらともいえない」30%「どちらかといえば不満」6%「不満」5%である。

[問 13]次に、本学に興味を持っている後輩に本学の入学を勧めたいかについては「勧めたい」11%「どちらかと言えば勧めたい」28%「どちらともいえない」35%「どちらかといえば勧めたくない」12%「勧めたくない」14%となっている。

### Ⅲ 提 言 伝統ある本学のさらなる発展のために機能する PDCA サイクルを 目指して

全 43 問すべての調査結果は、各グループワーク毎に配布された集計値およびグラフを参照いただきたい。

この結果をもとに今後のFD・SD研修等において本報告を実施し、改善案を探るグループワークを実施する必要がある。特に、ここに報告したものに対しても、現場で日々学生と接している教職員の生の体験から見れば、もっと多様な解釈が出てくるであろうし、設問や回答結果に対する意見もさらに出てくるのではないだろうし、出てくることを大いに期待したい。ただ、何よりも重要なことは、調査の結果として出てきた数字に対して、真摯に向き合い確実な改善をやり遂げていくということだと考える。これまで、PDCAサイクルからすれば、CAの部分に欠いた改善活動に終わる場面が少なくなかったと思われる。

そのため、それぞれ教職員が教育改善のために取り組んでいるところであるが、個々の取り組みに終始し、それぞれのつながりを欠いていた点が、今回の調査で厳しい評価となって表現されたといっよよいのではないだろうか。本学の様々な改善活動については、その最大の課題は、「PDCAサイクル」を完全な円となるようにするという点にある。一つひとつの調査の結果は良いものも悪いものもあるが、まずは今回出てきた調査結果を、教職員一人一人に重く受け止めていただきたい。そして、自らが変わる努力、また大学をよくしていく努力、何よりも時代の要請に応えられる学生ファーストの取り組みが大学の今後を左右することを念頭に主体的な取り組みを期待したい。

群馬に古くから淵源を持ち教育の伝統を重ねてきた本学が、少子化の時代になお存在意義を輝かしながら発展を続けていくために、変化をすべきは変化をしていかなければならない。教職員一人一人が、自分の授業や業務はもちろん、関わるものすべてにおいて、PDCAサイクルを機能させるという意識を高め、将来ビジョンをしっかりと掲げていくことが求められている。